

大田原市 成果報告書

522 事業（平成 23 年度）の内

529 事業（平成 22 年度）の内

公共交通 市営バス

平成 23 年度

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

平成 22 年度

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

平成 25 年 10 月

公会計研究所

はじめに

大田原市役所が何をしなければならないかを決めるのは、本来市民の皆様です。市民が必要としていることなら、何でも市役所の仕事になる訳ではありません。住民の同意が得られた後に、大田原市が行う仕事となります。

市民が、大田原市の作成する全ての資料を閲覧できるようになっても、合理的な判断ができる訳ではありません。市にはたくさんの仕事が委ねられ、膨大な資料があります。大田原市は、平成 23 年度の予算ベースで 522 の事業に予算がつけられ、630 名の一般職員がその事業を行っています。

民間では、商品に関心を持つ人だけが商品の取引に参加します。購入を検討する人は、商品を手に取り値札を確認します。

行政が行う事業は民間で行う取引よりも複雑になります。事業を提供する市と、そのサービスを受ける受益者の他に、資金を提供する市民が存在します。ごく一部の人の役に立つのであっても必要であるか否かを、市民が合理的に判断できるようにしなければなりません。市民の意思決定に有用な会計報告が、求められる理由です。

成果報告書は、大田原市が行う事業について、誰のためにどのようなサービスが、如何ほどの市民の負担で提供されているのかを明らかにします。市の行う事業について、市民の皆様に関心を持っていただき、その内容とコストを明らかにするのが成果報告書の役割です。

平成 25 年 10 月 31 日

公会計研究所 代表 **吉田 寛**

博士（政策研究）・公認会計士

成果報告書の構造

成果報告書は、公会計研究所の会計原則の「有用性の原則」を受けて作成されます。平成 23 年度の大田原市の成果報告書は、予算のついた 522 の事業のうち、市営バスの運営について作成しました。成果報告書は、二つの要素から構成されます。一つは行政の提供するサービスの内容を示す成果説明の部です。もう一つは、そのサービスを提供するために発生したコストとそのコストを誰が負担したかを明らかにするコスト説明の部です。

それぞれの内容は次のとおりです。

成果説明の部

成果説明の部は、成果報告書で説明する各事業の概要を説明します。各年度始めに定めた成果の目標とその結果が対比される事が望まれます。今回の公共交通事業の市バスの成果説明は、生活環境課によるものです。

また、成果を示す指標として市バス各路線の料金別利用者数と通学に利用している学校名を記載しました。民間バス路線がある場合はその会社名を掲載しています。

コスト説明の部

コスト説明の部は、当該事業を行うために発生したコストとそのコストを誰が負担したかを示します。

発生費用の部では当該事業を行うために発生した費用を費目別に集計して計上しています。建物・構築物などの市民の資産を事業遂行に利用している場合には、当該資産の減価償却費相当金額を更新引当額として記載します。この報告書では、各路線に割当てられた車両毎の取得原価と取得年度を把握し、減価償却費相当金額を更新引当額として記載します。

費用負担の部では、誰が行政の費用を負担したかを明らかにします。費用負担は受益者負担額がある場合にはその金額を控除しました。この成果報告書では、市バスの利用者の支払った運賃となります。

市民の負担は、発生した費用から受益者負担額を差引いた金額です。

県や国からの資金が充てられる場合もあります。これらの資金が市民の納めた税金が原資であることから、市民の負担として合計表示しました。県からの資金を「県民として」、国からの資金を「国民として」と内書きします。

成果報告書			
成果説明の部		成果を説明する	
成果の説明			
コスト説明の部			
発生費用の部			
人件費		A	
経費		B	
提供資金		C	
発生費用合計		A+B+C	=D
費用負担の部			
受益者負担			E
差引	市民の負担		D-E
	県民として(県からの補助金)		F
	国民として(国からの補助金)		G

更新引当金繰入額の計算方法の変更について

平成 23 年度の「公共交通 市営バスの成果報告書」の作成では、更新引当金繰入額の計算の基礎となる車両の取得価額を平成 23 年度の「大田原市民の貸借対照表」「大田原市長の貸借対照表」と同じ資料から計算しました。平成 22 年度の「公共交通 市営バスの成果報告書」についても遡及して再計算し、参考資料として掲記しました。

あわせて、市民の負担が大きい路線の算定を効率基準から金額基準に変更しました。

成果報告書 公共交通事業の市バス

成果説明の部

平成 23 年度 大田原市営バスは 15 の路線を運行しています。平成 23 年度の市営バスの利用者数は、約 72 万 8 千人、運行収入は約 1 億 1700 万円となっています。黒羽地区において、朝夕、通学のために市営バス車両を利用していた時間帯があり、平成 22 年度は、その利用者数が市営バスの利用者数に含まれていました。平成 23 年度は、スクールバスの見直しにより、通学のための利用者数を市営バスの利用者数から除いたため、市営バス利用者数の減につながっています。

	15 路線合計		市民の負担が 少ない路線 那須 塩原駅線	市民の負担が 大きい路線 湯津上線
	平成 23 年度	平成 22 年度		
成果説明の部				
一日あたり(単位:人)				
利用時支払者	527	537	181	48
定期利用者	1,467	1,613	476	90
利用者数計	1,995	2,150	657	138
受益者 1 人当たり		(単位:円)		(単位:円)
受益者負担	160	154	166	163
市民の負担	228	232	-39	549
コスト説明の部				
発生コストの部				
市営バス運行費計	282,907,255	302,737,140	30,593,393	35,873,927
コスト負担の部				
受益者負担	116,801,400	121,017,800	39,761,176	8,230,356
市民の負担	166,105,855	181,719,340	-9,167,783	27,643,571
内 国民として	9,000,000		600,000	600,000

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。
各路線の明細は次ページ以降に掲載します。

路線	那須 塩原駅線	大田原市 内循環線	黒羽線	湯津上線	那須 塩原線
利用者					
大人	26,714	41,232	17,579	10,792	4,674
高校大学生	207,533	57,468	118,398	34,586	20,154
小中学生	876	1,547	1,972	1,559	117
高齢者	4,699	4,787	6,560	3,448	1,025
利用者合計	239,822	105,034	144,509	50,385	25,970
一日あたり利用者数					
現金支払者	181	118	99	48	14
定期利用者	476	169	296	90	57
利用者数合計	657	287	395	138	71
全市民に対する割合	0.896%	0.392%	0.540%	0.188%	0.097%
通学定期利用校	国際医療 福祉大学	大田原女子 高等学校	国際医療 福祉大学 黒羽高等学校	国際医療 福祉大学	黒羽高等学校
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	166	169	162	163	161
市民の負担	-39	85	91	549	512
競合する民間路線			東野交通	東野交通	
コスト説明の部					
発生コストの部					単位:円
生活環境課 人件費	832,133	832,133	832,133	832,133	832,133
運行業務委託費	17,224,076	8,190,048	8,300,552	7,947,247	7,890,649
バス運行経費	3,039,386	17,574,013	5,391,878	5,031,217	5,259,089
更新引当金繰入額	9,453,121	57,333	57,333	57,333	3,433,382
地方バス路線維持対策費			21,961,321	21,961,321	
調査事業	44,676	44,676	44,676	44,676	44,676
市営バス運行費計	30,593,393	26,698,203	36,587,893	35,873,927	17,459,930
コスト負担の部					
現金収入	13,227,500	8,638,700	7,277,100	3,559,400	1,035,900
定期利用配賦額	26,533,676	9,109,719	16,125,042	4,670,956	3,139,304
路線収入	39,761,176	17,748,419	23,402,142	8,230,356	4,175,204
市民の負担	-9,167,783	8,949,785	13,185,752	27,643,571	13,284,726
内国民として	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

路線	急行 福祉大線	野崎方面 循環線	金田方面 循環線	佐久山・親園 方面循環線	須賀川線
利用者					
大人	2,775	6,607	2,500	1,428	516
高校大学生	100,630	2,404	848	3,919	99
小中学生	71	365	3,699	736	2,613
高齢者	116	4,441	3,414	3,212	481
利用者合計	103,592	13,817	10,461	9,295	3,709
一日あたり利用者数					
現金支払者	23	14	6	6	4
定期利用者	260	23	22	19	7
利用者数合計	283	37	28	25	10
全市民に対する割合 通学定期利用校	0.387% 国際医療 福祉大学	0.052%	0.039%	0.035%	0.014%
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	159	145	112	134	106
市民の負担	127	711	1,050	1,275	2,738
競合する民間路線					

コスト説明の部

発生コストの部

生活環境課 人件費	832,133	832,133	832,133	832,133	832,133
運行業務委託費	16,853,620	7,939,647	7,937,932	7,932,786	5,713,238
バス運行経費	10,946,052	2,950,860	3,285,291	3,078,731	3,901,693
更新引当金繰入額	917,333	57,333	57,333	1,214,836	57,333
地方バス路線維持対策費					
調査事業	44,676	44,676	44,676	44,676	44,676
市営バス運行費計	29,593,815	11,824,650	12,157,366	13,103,163	10,549,074

コスト負担の部

現金収入	1,727,600	1,047,900	458,700	499,100	263,600
定期利用配賦額	14,728,156	958,660	715,909	749,213	131,040
路線収入	16,455,756	2,006,560	1,174,609	1,248,313	394,640
市民の負担	13,138,059	9,818,090	10,982,756	11,854,850	10,154,433
内国民として	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000

雲巖寺線	両郷線	南方線	片田線	寒井・桧木沢 方面循環線	合計
1,877	1,704	120	191	50	118,759
603	7	7	58	12	546,726
1,381	5,603	1,189	1,552	1,770	25,050
2,685	854	566	1,170	217	37,675
6,546	8,168	1,882	2,971	2,049	728,210
4	2	1	2	0	527
13	20	4	6	5	1,467
17	22	5	8	6	1,995
0.024%	0.031%	0.007%	0.011%	0.008%	2.721%
117	98	95	97	82	160
2,048	1,102	4,502	4,385	6,029	228

単位:円					
832,133	832,133	832,133	832,133	832,133	12,482,000
5,723,528	5,735,534	5,708,094	5,559,415	5,557,700	124,214,066
3,377,096	3,137,748	2,008,224	2,688,562	1,895,108	73,564,948
4,192,038	57,333	57,333	4,192,038	4,192,038	28,053,455
					43,922,641
44,676	44,676	44,676	44,676	44,676	670,145
14,169,472	9,807,425	8,650,462	13,316,825	12,521,656	282,907,255
293,300	158,900	99,600	172,200	21,700	38,481,200
473,003	643,558	78,640	116,291	147,032	78,320,200
766,303	802,458	178,240	288,491	168,732	116,801,400
13,403,168	9,004,967	8,472,222	13,028,334	12,352,924	166,105,855
600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	9,000,000

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

成果報告書 数値の参照元等

成果説明の部

- 利用者数 大人、高校大学生、小中学生、高齢者

平成 23 年度 市政年報 p.125 全路線乗車状況によりました。

- スクールバス運用による通学定期利用校の減少

平成 22 年度まで黒羽中学校は、通学バスとして須賀川線、雲巖寺線、両郷線、南方線、片田線、寒井・桧木沢方面循環線を利用していました。平成 23 年度は、スクールバスの運行を(有)那須観光自動車（委託料 4,770 千円）、黒澤自動車(有)（委託料 4,577 千円）、シルバー人材センター（委託料 15,105 千円）に委託（合計委託料 24,453 千円）し、市営バス利用がなくなったため通学定期利用校でなくなりました。

- 一日当たり利用数 (端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません)

現金支払者数

平成 23 年度 市政年報 の使用料内訳 路線収入を 365 日で除した値を運賃 200 円で除し、利用の都度現金を支払う利用者数としました。

定期利用者数

一日あたり利用者数合計から現金支払者数を差引いています。

利用者数合計

平成 23 年度 市政年報 p.125 全路線乗車状況によりました。

- 全市民に対する割合 (端数処理をしています)

上記の一日あたり利用者数の平成 23 年度末の全市民（73,332 人）に対する割合を表示しています。

市民の負担

市バスを運行するために発生した市営バス運行費計から、路線収入を差引いて算出した市民の負担です。

市バス利用毎のコスト負担

市バス利用者が、市バスを一回利用する毎に生じる費用を、各路線で受益者である利用者と、利用をしていない市民が負担する金額を示しています。

コスト説明の部

発生コストの部

- **生活環境課 人件費:**
係長の人件費を業務割合からその半分と、専従職員 2 名分の人件費を計上し各路線毎に均等配賦しました。
- **運行業務委託費**
バスの運行の委託については委託会社との契約に従い該当路線へ均等配賦しています。
また定期券・回数券の販売に係わる委託手数料および増便の委託料は、定期券利用者数により均等配賦しています。
- **バス運行経費**
市政年報 p.125 に計上された各運行費（バス用消耗品費、バス用燃料費、バス修理費、手数料、保険料、公課）を各路線の年間走行距離に応じて配賦しています。
- **更新引当金繰入額**
各路線で利用されるバス車両の取得原価と取得年から耐用年数を 5 年として計算しています。
- **地方バス路線維持対策費**
民営のバス路線を維持するために民間バス会社に支払っている金額です。
- **調査事業**
地域公共交通確保維持改善事業による調査事業の金額です。

コスト負担の部

- **現金収入**
平成 23 年度 市政年報 p.125 使用料内訳の路線収入を転記しています。
利用の際に現金を支払う利用者からの収入を計上しています。
- **定期利用配賦額**
平成 23 年度 市政年報 p.125 の各路線の各使用料から全路線乗車状況中の乗車人員数が所定の運賃を払ったとして得た金額から、実際の路線収入を差引いた金額を定期券・回数券利用の割引利用分として各路線に配賦しました。
- **路線収入**
現金収入と定期利用配賦額との合計額です。
- **内 国民として**
地域公共交通確保維持改善事業に対する国庫補助の金額です。

成果報告書 公共交通事業の市バス（参考 平成 22 年度）

成果説明の部

大田原市営バスは、15 路線を運行しています。平成 22 年度の年間利用者数は約 78 万 5 千人、運行収入は約 1 億 2 千万円となっており、通勤や通学、通院、買い物等、地域住民の足として、多くの方々が利用しています。今後、地域の需要に応じた交通モードの再編や、バス停での誤乗車を防止するために、わかりやすく、利用しやすい車両の整備と、安心して利用できるための情報提供の充実などが求められています。

成果指標			市民の負担が 少ない路線 那須 塩原駅線	市民の負担が 大きい路線 湯津上線
路線	15 路線合計	路線平均		
一日あたり(単位:人)				
利用時支払者	537	36	185	49
定期利用者	1,613	108	480	76
利用者数計	2,150	143	665	125
通学定期利用校			国際医療福祉大学	

コスト説明の部

発生コストの部

単位:円

市営バス運行費計	302,737,140	20,182,476	34,771,631	37,031,914
コスト負担の部				
受益者負担	121,017,800	8,067,853	41,160,082	7,527,322
市民の負担	181,719,340	12,114,623	-6,388,451	29,504,592
受益者 1 人当たり				
受益者負担	154	154	170	165
市民の負担	232	232	-26	647

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。
各路線の明細は次ページ以降に掲載します。

大田原市 市営バス 路線別成果報告書 (参考 平成 22 年度)

路線	那須 塩原駅線	大田原市 内循環線	黒羽線	湯津上線	那須 塩原線
利用者					
大人	27,016	42,959	18,276	12,665	5,571
高校大学生	210,116	50,054	127,425	26,709	16,751
小中学生	740	1,588	2,425	1,461	452
高齢者	4,788	4,168	6,661	4,771	2,419
利用者合計	242,660	98,769	154,787	45,606	25,193
一日あたり利用者数					
現金支払者	185	121	98	49	17
定期利用者	480	150	326	76	52
利用者数合計	665	271	424	125	69
全市民に対する割合	0.902%	0.367%	0.575%	0.170%	0.094%
通学定期利用校	国際医療 福祉大学	大田原女子 高等学校	国際医療 福祉大学 黒羽高等学校	国際医療 福祉大学	黒羽高等学校
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	170	173	165	165	161
市民の負担	-26	184	110	647	529
競合する民間路線			東野交通	東野交通	
コスト説明の部					
発生コストの部					
	単位:円				
生活環境課 人件費	650,371	650,371	650,371	650,371	650,371
運行業務委託費	18,998,018	8,710,057	9,553,825	8,201,872	8,071,807
バス運行経費	3,031,155	17,526,419	5,377,275	5,017,591	5,244,846
更新引当金繰入額	10,551,212	6,851,569	3,491,488	112,889	3,433,382
工事請負費	1,540,875	1,540,875		1,540,875	
地方バス路線維持対策費			23,517,000	21,508,315	
市営バス運行費計	34,771,631	35,279,292	42,589,960	37,031,914	17,400,407
コスト負担の部					
現金収入	13,507,000	8,803,100	7,146,400	3,591,000	1,267,100
定期利用配賦額	27,653,082	8,322,750	18,371,962	3,936,322	2,795,133
路線収入	41,160,082	17,125,850	25,518,362	7,527,322	4,062,233
市民の負担	-6,388,451	18,153,442	17,071,598	29,504,592	13,338,174

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

大田原市 市営バス 路線別成果報告書 (参考 平成 22 年度)

路線	急行 福祉大線	野崎方面 循環線	金田方面 循環線	佐久山・親園 方面循環線	須賀川線
利用者					
大人	2,127	7,420	2,811	2,001	371
高校大学生	59,165	1,891	883	4,213	749
小中学生	20	496	4,718	658	20,600
高齢者	111	4,319	3,355	3,115	433
利用者合計	61,423	14,126	11,767	9,987	22,153
一日あたり利用者数					
現金支払者	17	16	8	8	5
定期利用者	151	22	24	20	56
利用者数合計	168	39	32	27	61
全市民に対する割合 通学定期利用校	0.228% 国際医療 福祉大学	0.053%	0.044%	0.037%	0.082% 黒羽中学校
市バス利用毎のコスト負担					
受益者負担	164	150	116	141	88
市民の負担	319	885	858	1,180	358
競合する民間路線					
コスト説明の部					
発生コストの部					
生活環境課 人件費	650,371	650,371	650,371	650,371	650,371
運行業務委託費	17,223,405	8,021,316	8,029,636	8,005,867	6,001,593
バス運行経費	10,916,409	2,396,685	2,668,310	2,500,542	3,168,951
更新引当金繰入額	917,333	2,009,657	112,889	2,041,623	57,333
工事請負費		1,540,875			
地方バス路線維持対策費					
市営バス運行費計	29,707,518	14,618,905	11,461,206	13,198,403	9,878,249
コスト負担の部					
現金収入	1,255,500	1,187,500	603,200	568,600	369,900
定期利用配賦額	8,836,870	927,486	756,380	843,498	1,570,197
路線収入	10,092,370	2,114,986	1,359,580	1,412,098	1,940,097
市民の負担	19,615,148	12,503,918	10,101,626	11,786,305	7,938,152

大田原市 市営バス 路線別成果報告書 (参考 平成 22 年度)

雲巖寺線	両郷線	南方線	片田線	寒井・桧木沢 方面循環線	合計
1,512	1,588	117	383	331	125,148
3,556	20	275	94	42	501,943
10,277	19,206	7,571	25,777	22,182	118,171
2,427	1,151	473	972	334	39,497
17,772	21,965	8,436	27,226	22,889	784,759
5	3	0	2	2	537
44	57	23	72	61	1,613
49	60	23	75	63	2,150
0.066%	0.082%	0.031%	0.101%	0.085%	2.918%
黒羽中学校	黒羽中学校	黒羽中学校	黒羽中学校	黒羽中学校	
107	88	85	83	83	154
689	333	883	393	453	232
単位:円					
650,371	650,371	650,371	650,371	650,371	9,755,567
5,938,902	6,007,672	5,823,621	5,939,873	5,876,597	130,404,060
3,367,950	2,548,476	1,631,078	2,183,647	1,539,205	69,118,538
4,192,038	57,333	57,333	4,192,038	4,192,038	42,270,160
					6,163,500
					45,025,315
14,149,261	9,263,852	8,162,403	12,965,929	12,258,211	302,737,140
341,400	250,100	33,000	161,600	149,800	39,235,200
1,558,325	1,690,364	681,697	2,092,660	1,745,875	81,782,600
1,899,725	1,940,464	714,697	2,254,260	1,895,675	121,017,800
12,249,537	7,323,388	7,447,706	10,711,669	10,362,536	181,719,340

端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません。

成果報告書 数値の参照元等

成果説明の部

- 利用者数 大人、高校大学生、小中学生、高齢者

平成 22 年度 市政年報 p.51 全路線乗車状況

➤ 通学定期利用校としての黒羽中学校

本報告書の対象とした平成 22 年度において黒羽中学校を通学定期利用校としている路線（須賀川線、雲巖寺線、両郷線、南方線、片田線、寒井・桧木沢方面循環線）は、黒羽中学校の通学バスとしての併用しました。このため、小中学の利用者数が多くなっています。

- 一日あたり利用数 (端数処理をしているので合計額は必ずしも一致しません)

現金支払者数

平成 22 年度 市政年報 p.51 使用料内訳 路線収入を 365 日で除して得た値を運賃 200 円で除して算出しました。利用の都度現金を支払う利用者数です。

定期利用者数

一日あたり利用者数から支払い利用者数を差引きました。

利用者数合計

現金支払者数に定期利用者数を加算して一日あたり利用者数合計としました。

- 全市民に対する割合 (端数処理をしています)

上記の一日あたり利用者数の平成 22 年度末の全市民（73,688 人）に対する割合を表示しています。

コスト説明の部

発生コストの部

- 生活環境課 人件費:

係長の人件費を業務割合からその半分で、専従職員 1 名分の人件費を計上し各路線毎に均等配賦しました。

- 運行業務委託費

バスの運行の委託については委託会社との契約に従い該当路線へ均等配賦しています。

また定期券・回数券の販売に係わる委託手数料および増便の委託料は、

定期券利用者数により均等配賦しています。

- バス運行経費

市政年報 p.50 に計上された各運行費（バス用消耗品費、バス用燃料費、バス修理費、手数料、保険料、公課）を各路線の年間走行距離に応じて配賦しています。

- 更新引当金繰入額

各路線で利用されるバス車両の取得原価と取得年から耐用年数を 5 年として計算しています。

- 工事請負費

バス停に係わる費用です。発生した各路線へ賦課しています。

- 地方バス路線維持対策費

民営のバス路線を維持するためにバス会社に支払っている金額です。

コスト負担の部

- 現金収入

平成 22 年度 市政年報 p.51 使用料内訳の路線収入を転記しています。利用の際に現金を支払う利用者からの収入を計上しています。

- 定期利用配賦額

平成 22 年度 市政年報 p.51 の各路線の各使用料から全路線乗車状況中の乗車人員数が所定の運賃を払ったとして得た金額から、同ページの使用料内訳を差引いて得た金額を定期券・回数券の利用分として各路線に配賦しました。

- 路線収入

現金収入と定期利用配賦額との合計額です。

市民の負担

市バスを運行するために発生した市営バス運行費計から、路線収入を差引いて算出した市民の負担です。

市バス利用毎のコスト負担

市バス利用者が、市バスを一回利用する毎に生じる費用を、各路線で受益者である利用者と、利用をしていない市民が負担する金額を示しています。